

謝辞

例年とは違う卒業式となりましたが、保護者を代表いたしまして、お礼の言葉を述べさせていただきます。

各家庭の六年間の様々な苦勞が一気に報われるような卒業証書授与の姿を、この目で見られないのはとても残念でさびしい気持ちですが、親としては子どもたちが卒業を迎えられた喜びには変わりなく、一つの大きな節目を祝う心は、さびしさを吹き飛ばすくらいです。

本日の卒業式を挙行していただいたことに、まずは感謝申し上げます。

入学当初、不安や心配の表情が見られた子どもたちは今、自信たっぷりな表情になり、六年という月日の成長は、ただ事ではないと振り返る事が出来ます。

健康カードに貼ってあった青いリボンをつくづく眺めて、息子が小さい時に何百回と読んだ『あかいリボンのおくりもの』という絵本があったのですが、実現した『青いリボンのおくりもの』に感動しました。

社会状況がめまぐるしく変化する中、一年一年の授業運営がどれほど大変かは想像できません。それでも原町小学校の教育方針は代々守られてきました。

運動本能を刺激するような数々の工夫で身体を動かす楽しさを覚え、心が弾む音の世界を広げ、仲間と作り上げる音楽の世界を知り、美の感覚を呼び覚ますような作品と機会に触れて、目がハッと輝きました。子どもたちのこれからの人生が豊かになる土台が築かれました。

教育環境においては、地域の大きな力に助けられました。子どもたちの登下校を見守るスクールガード活動から、プールに捨てられた粗大ゴミの処理や、木の剪定に草刈りなども・・・他校からうらやましがられる事もたびたびありました。親の手がなかなか届かない所へ差し伸べられた地域の手には、感謝しきれないほどです。

各町会での行事や、土曜あそび場では、子どもたちを楽しませてもらっただけでなく、親への励ましや、小さな成長を一緒に喜んでくださいました。また、子育てにおいて力を入れるべき所と、手を抜く所、子育てを頑張り過ぎない事を教えていただき、それは殊の外ありがたく、肩の荷を軽くすることが出来ましたし、自分の人生も楽しくしようと思いきっかけになりました。

親子ともどもお世話になった地域皆様の温かい手と心に深く感謝申し上げます。これからも人生の大先輩方の智恵を授けていただき、私たち親も地域を見守っていけるようにご指導ください。子どもたちが見事に成長したこの六年間、学校がある日常が当たり前でした。でもその当たり前的前提としての、校長先生をはじめとした全職員の皆様の日々の学校運営、子どもたちの生活基礎力のサポート、子どもたち一人一人と向き合うその姿勢には感謝でいっぱいです。六年間本当にありがとうございました。

同じ事を繰り返し継続し、一つ一つ積み重ねていくことは、それぞれの家庭だけでなく、学校と地域との連携で成し得ていくものだと思います。その連携が子どもたちの成長につながったのだと気づいたのは、今回の休校措置でした。親としても、色々な事を考える良い機会となりました。

六年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。こんなに大きくなってきてありがとうございます！今日の卒業式をさびしいと思うか、貴重な体験と思うかの選択は自由ですが、この経験と六年間で培ったことをこれからは活かし、どんな時でも、何が起これども臨機応変に行動出来る人になって欲しいと願っています。きっと「はらまっち」も、いつもどこかで、原町小学校の先生方と一緒に見守っていてくれる事でしょう。後輩たちがあこがれるような、夢をつかむための努力を惜しまない先輩でいてください。

新年度には、また原町小学校児童の元気な声が聞けるのを祈っております。

令和二年三月二十四日

保護者代表 宮田千恵